

登場! あしたの 事部長

人材戦略の
明日はどっちだ!

株式会社河野製作所

コーポレートコミュニケーション部 マネージャ 玉田 祥子 さん

ベンチャーマインドで 活気あふれる職場にしたい

「7:3ルール」で チャレンジを引き出す

技術開発型ベンチャー企業として、半世紀にわたって培ってきた「微細加工技術」を活かし、手術用縫合糸をはじめとした医療機器の開発・製造・販売に取り組んでいる河野製作所(本社:千葉県市川市)。日本初のマイクロサージャリー(微細な外科手術)用針付縫合糸を世に出した半世紀ほど前から、「ないものは自分たちで作る」との姿勢で、時には製造装置までも自社開発してきた生粋のものづくり企業である。2017年4月、広報担当の中心者としてコーポレートコミュニケーション部の立ち上げから参画し、以来、人事業務の採用活動に携わる玉田祥子さんにお話を伺った。

「当社のミッションは『QOLを高め、一人でも多くの人を救う製品を作る。』というものです。そ

の実現を目指して、3つの経営目標を掲げています。1つ目が、『新製品(10年以内に上市した商品)の売上げが全体の50%を占める』。2つ目が、『年に2つ以上の世界オンリーワン新製品を上市する』。3つ目が、『事業を立ち上げられるマネジメント能力を持つ人材を育てる』というものです。3つの経営目標1つひとつに、当社が求める人材像のイメージが含まれているということです」

ミッションの実現のため、また、人材育成のために用意されているのが、技術開発型ベンチャー企業として誇り高い「7:3ルール」である。通常業務に7割、チャレンジ業務に3割を割くことを常に求めている。

「採用説明会などでは、この「7:3ルール」が当社ならではの働き方であることを明確に伝えるようにしています。実際に「7:3ルール」そのものが気に入って、入社を決めたと語る人材が多いで

す。ちなみに当社の場合、開発部門だけが開発を担当するのではなく、様々な部署からメンバーを集めてプロジェクトを行っているので、どの部署にいても開発に携わってもらっています。ただし“ルール”という呼称ばかりを強調してしまうと、どうしてもやらなきゃいけない感が出てしまいますので、これからは「7:3カルチャー」にしてもいいのかなと考えているところです」

グローバルニッチの トップを目指す

誰もがものづくりを通して幅広くチャレンジできる職場には自ずと活気生まれる。その背景には、社内外に活動の場を広げる戦略的な「広報」と、ミッションを意識した「人事」によるバランスのよい融合があった。

「実は広報として入社した私の最初の仕事が、常に20くらいのプロジェクトが動いている活気あ



▶保育園に通う愛娘の送り迎えはご主人と協力し合って実現。「今日は私がこっち、みたいな感じですね(笑)」と玉田さん。お子さんを寝かしつけた後、SNSでおしゃれなインテリア探しをするのが目下の息抜きと云

ふれる職場に、一番ふさわしいスローガンを制定することでした。そして誕生したのが、グローバルニッチトップへの挑戦を使命とする当社らしい『GNT100』というものです。Global(国内だけでなく、海外も含めて)、Niche(大企業が目を向けられない小さな市場で)、Top(1番になる製品を)、100(100個開発する)という願いを込めました」

「『GNT100』には、1人でも多くの患者を救うことはもちろん、新しい治療の技術発展に貢献する想いも込められている。

「グローバルニッチトップとは、具体的には、世界オンリーワンの製品を世の中に送り出していくことです。そのためにも必要不可欠になるのが、開発部門だけに限定しない開発プロジェクトの存在です。少し変わったところでは今、若手社員が中心となって、つくば

工場(茨城県常総市)の増築プロジェクトが進行しています。入社した職場環境のなかで、会社づくり、拠点づくりと直接携わることとはとても貴重です。当社は創業から半世紀以上が経ちますが、社員1人ひとりがベンチャーマインドを持って働くことができる環境を整えるのも、人事としての大切な視点であると捉えています」

時短勤務を続けながら 次の使命にチャレンジ

長引くコロナ禍のなかで、営業所を本郷三丁目から御茶ノ水に移し、新たにフリーアドレス制による職場環境を整備。リモートワークを基本としつつも、各拠点のメンバーが集い、コミュニケーションが取れる場としての職場環境づくりにも力を入れるコーポレートコミュニケーション部である。

「私たちも“ないものは自分た

ちで作る」とのベンチャー精神で、年4回の社内報を通じて、ビジョンの浸透を図るとともに、コミュニケーションの活性化についても意識しながら、みんなで協力してイノベーションを生み出していくという、そんな土壌づくりをやっているようにしています。ひょっとしたらこの先、さらなる会社の成長を期して、人事部が正式に立ち上がる時期も来るかもしれませんが、今は経営と直結した採用業務を担う広報の1人として、できることはすべて全力で関わっていきたくて考えています」

1歳半のお子さんがあるママとして、現在は時短勤務で働く玉田さん。ワークライフバランスもしっかり整えることで、常にポジティブな姿勢で仕事に臨めるよう心掛けているようだ。

「時短といっても、仕事が好きなのでわずか1時間の違いです(笑)。今後は海外展開を視野に入れながら、グローバル人材の獲得にも力を注いでいきたいと思っています。またキャリア採用においては、新たに独自のスカウト活動も始まり、カジュアル面談の企画から運用まで担当しています。今後の人材育成や教育施策についてもさらなる拡充が求められているなか、しっかりとその使命を果たしていきたいと決意しています」

(聞き手・関本しげる)